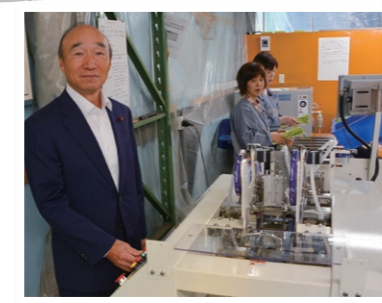


令和元年度 JA筑紫のあゆみ 〈自己改革〉

農業者の所得増大・農業生産の拡大



▲アスパラガス計量結束機の導入
JA管内にあるアスパラガス共同選果場に、計量結束機を導入しました。以前は計量や結束を手作業で行っていましたが、計量結束機の導入により、作業時間を大幅に短縮でき労働時間の削減を実現しました。

▲ブロッコリーの新品種を試験栽培
令和元年度より試験的に栽培しているブロッコリーの新品種「こんにち」を出荷しました。ほかの品種と共に栽培することで、出荷期間を延ばし、生産者の所得増大に繋がっています。



▲ゆめ畑の販売力強化
地産地消を推進し、新鮮で安全安心な農畜産物を提供する農産物直売所「ゆめ畑」を5か所で運営。出荷者と消費者の利便性の向上と、組合員の農業所得の増大に取り組んでいます。



◀ニーズに応じた個別対応
担い手対応渉外(TAC)や営農指導員が、営農指導・営農相談活動をニーズに応じて個別に取り組んでいます。また、直売所出荷者に対する園芸指導や、地域ごとの栽培講習会なども行っています。



◀6次産業化商品の開発
平成30年に設立されたクワイモ研究会のクワイモを使用し、「博多菊芋錠剤」「博多菊芋粉末」を開発。生産者の所得安定のため販売拡大に取り組んでいます。

JAグループは「食と農を基軸として地域に根差した協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現するため、自らが改革を進める「自己改革」に取り組んでいます。
JA筑紫は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として自己改革に取り組んでいます。
今年度に取り組んだ主な事例を報告致します。

自己改革を広める取り組み



◀協同組合(JA)運動者としての入づくり
組合員のメンバーシップを強化するため、組合員や役員を対象とした研修に取り組んでいます。



自己改革を伝える取り組み

自己改革の情報を記した広報誌やHPでの情報発信、各会議やふれあい活動などにおいて意見交換やアンケートの実施により自己改革への理解に努めています。



▲生活インフラ機能の発揮
地域貢献型の貯金・融資を提案し「子ども食堂」への寄付を行い、防犯協会へ防犯資材の寄贈、支店の建て替えなど、多様な事業を総合的に展開することで、地域づくりに努めています。



◀正・准組合員のメンバーシップの強化
店舗における地域活動を企画段階から参画を求め、組合員がJAの事業や活動に積極的に参加してもらう「アクティブ・メンバーシップ」の確立に取り組んでいます。そのため、「准組合員の集い」の開催や、「店舗運営委員会」を各支店に設置し、組合員の意思反映と運営の円滑化を図り、組合員とのふれあいと店舗における活動を活発に展開しています。

地域の活性化



▲ふれあい活動
食農教育活動や地域貢献、地域との交流など組合員や地域の皆さまとの「つながり」を大切に、豊かで暮らしやすい地域づくりを目指すため、店舗を拠点とした「ふれあい活動」を行っています。



▲情報発信
組合員向け広報誌「ふあみーゆ」や地域住民向け広報誌「ふあみーゆ+ (プラス)」、地域住民向けコミュニティ誌「こみゆ」、各店舗で発行する「支店だより」や「ゆめ畑だより」、ホームページなど皆さまに「食」「農」「協同組合」の情報を発信し、JAへの理解促進を図っています。